


健康登山44:自然歩道22 (中太郎生～大洞山～尼ヶ岳～高尾)

コース	中太郎生 (0.9km/20) 南出集落 0.6km/19 蔵王堂 1.3km/35 登山口 0.6km/47 大洞山雌岳 0.7km/20 大洞山 1.1km/36 倉骨峠 0.5/14 才 オタワ 0.9 / 42 尼ヶ岳 2.2km/61 県道桜峠分岐 1.7 k m/24 上高尾		
水平距離	9.6km	断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離	14.9km		
累計高低差	登り866m、下り900m		
標準歩行時間	4 : 58		
実績歩行時間	4 : 47		



山行報告

山行日 2008・12・4 (金) 天候 快晴 参加者 5名

名張駅 タクシー 南出集落10 : 41 蔵王堂10 : 56 登山口11 : 27 大洞山雌岳12 : 15 ~
行動 12 : 55 大洞山雄岳13 : 16 倉骨峠13 : 49 大タワ14 : 03 尼ヶ岳14 : 38 ~ 15 : 09 県道
桜峠分岐16 : 07 上高尾バス停16 : 28 タクシー 名張駅18 : 35

記 録

三重県に入り美杉町の中太郎生から大洞山と尼ヶ岳を経て青山町の上高尾まで歩いた。京都からは遠い上に登山口へ行くバス便が少ないため、近鉄の名張駅からタクシーを利用して中太郎生から1kmほど先の南出集落まで行った。そのため歩行時間を20分短縮できた。地図に490.6mの三角点があるがそこが蔵王堂への登り口で、道標に『桔梗平～倉骨峠区間は路面崩壊で通行止め、迂回路は大洞山山頂ルート』と記されている。石畳の道を登ると蔵王堂に着き、その先に蔵王公園がある。やがて道は林道に出て600m歩くと標高700mの大洞山登山口に着く。ここは東海自然歩道が東西に通る、北には大洞山登山道が、南に向かっては三多気の桜1.5kmと記された近畿自然歩道の道標がある十字路となっている。登山口には展望台があり南東方面が開けていて局ヶ岳が見えた。ここから985mの大洞山雌岳まで急な石段道となるが、一気に登って360度の展望を楽しみながら山頂で昼食をした。西には倶留尊山から古光山へ至る稜線が、その奥に山腹から角が出たように見える屏風岩が見られた。北にはこれから行く大洞山雄岳と尼ヶ岳があり、東には山名表示板によると富士山が書かれている。雌岳から大洞山雄岳を経て尼ヶ岳までは展望コースである。穏やかな快晴で冬晴れというより小春日だったので散策気分で歩けた。大タワで一旦自然歩道と合流し尼ヶ岳に登るのだが、自然歩道は山頂の西側を巻いているのでここからの直登が少しくつ。しかし山頂からの展望はすばらしく、景色を眺めながらティータイムとした。下山はよく整備された桜並木の階段を下り、東海自然歩道にしたがって歩いた。上高尾バス停には16 : 30に着き17 : 06発のバスに乗る予定だったが、道路工事でバスが運休だったのでタクシーで名張駅へ戻った。一日中誰にも会わず大洞山一人占めだった。

自然歩道（中太郎生～大洞山～尼ヶ岳～高尾）



山麓から大洞山
10:40



蔵王堂
10:57



大洞山の登り
11:42



大洞山から
曾爾方面
12:13



大洞山にて
12:50



大洞山雄岳
から尼ヶ岳
13:16



倉骨峠への下り
13:24



尼ヶ岳にて
15:08



尼ヶ岳からの
階段下り
15:14



上高尾から
尼ヶ岳
16:30

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：中太郎生～大洞山～尼ヶ岳～高尾）

参考資料、HP、その他より

- ◎ 中太郎生：東海自然歩道大洞山の登山口。地域名「太郎生」の由来は、近江国の豪族多羅尾氏が移り住んだとする説が有力とされます。

（豊臣秀次・肅正に関連有りか？…）

信楽の多羅尾は近衛家の荘園であった。地侍の娘の間に生まれた多羅尾氏の祖、左近将監師俊は始め**高山太郎**と名乗っていた。

【多羅尾氏】

後年、徳川家康が伊賀越えの難にあったとき、13代後の多羅尾光俊が助けて感謝されている。

多羅尾地区は近江、山城、伊賀、大和の国境にあつて政治、軍事上の要衝であった。

関白近衛家基は信楽に隠居、子の経平も信楽に住み、生まれた子が高山太郎。多羅尾氏は南北朝時代、応仁の乱などで活躍。豊臣秀次が肅正されたとき側室に光俊の子で、光太の娘「お万の方」も名を連ね処刑された。秀次と関係があったという理由から光俊、光太をはじめ多羅尾一族は改易の憂き目となった。

徳川家康は秀吉の死後、伊賀越えのとき世話になった光俊の近況を調べさせ、苦しい生活を送っていることを知り、旗本に取り立て、以来最盛期には十萬石を治める全国天領代官所の首席となり世襲で務めることになった。

- ◎ 蔵王堂：大洞山登山口の中腹にある蔵王権現を祀る小さなお堂。
ここの蔵王権現は、吉野の蔵王権現、三多気の蔵王権現と合わせて、三姉妹の長女と伝えられています。

蔵王権現は憤怒像ですが土地の人は女神だと信じられているそうです。

蔵王堂の周辺に大小の岩石群が有り仏像や梵字が彫ってあり、盤座古代祭礼遺跡と推量されています。

- ◎ 蔵王公園：蔵王堂の上であり、昭和初期まで桜の名所として知られていた。
近くの三多気の桜と同じ位桜が多くあったそうです。

- ◎ 中太郎の日置姓：蔵王堂のある地区で日置姓が多くあります。戸数60戸のうち28戸が日置姓といます。

NHKが昭和55年(1980)2月11日に放送の「謎の北緯34度32分、知られざる古代、**太陽の道**」に関係があるといわれています。

大和の箸墓を中心に東西200キロの線を引いた“陰の測量師”で古代氏族の「日置部」の人達の末裔でないかと推測されています。

大和国家の新しい支配地に送り込まれた人達で、武装集団であり、太陽を祀る祭祀集団で製鉄や土器製作の新しい技術を身につけた技術集団であったと考えられている。

全国の日置の地名のあるところ遺跡が直線状に並ぶらしいです。

日置はヒオキ、ヒキ、ヘキで比岐、部木、戸木、戸岐、幣岐と書きます。

美杉村(町)に「戸木」の地区、伊勢津市に戸木町があります。

【太陽の道】北緯34度32分

人間が造った多くのものが並んでいる。(太字は健康登山で歩いた所)

伊勢斎宮跡—堀坂山(757m松坂市)—三坪山(美杉村漆、鏡と経筒)—**蔵王堂**—**俱留尊仏(山)**—**室生寺**—**長峰天満社裏山(天神山)遺跡**—春日宮天皇妃稜(円墳、**鳥見山山麓**)—**長谷寺**—**三輪山**(春分と秋分の日には太陽は三輪山の真上から上り、二上山の雄岳と雌岳の間に沈む)—**桧原神社**(鳥居の正面に二上山)—**箸墓**(二上山の石で神と人が造る)—**萩原天神**(堺市日置荘、近くに仁徳天皇陵)—**大鳥神社**(堺市、祭神は日本武尊、一羽の白鳥になりしばしこの地に留まった)—**伊勢久留麻神社**(淡路島)。

伊勢と縁が深く、磐座、岩石が信仰対象で、女性祭祀者のイメージが強い。

- ◎ **大洞山** : 室生火山群に属する。布引山地の南端に位置する。山全体が山伏の法螺を伏せたように見えるのでこの名がついた。

雄岳1013m、雌岳985.1mに三等三角点、ありほぼ360度の展望。

1~2月は霧氷もみられる。

山麓の真福院の「三多気の桜」は名勝として知られ「日本の桜名所百選」になっています。この時期の山行計画もガイドブックに推奨されています。

伊勢本街道から1.5キロのヤマサクラの並木道が続きます。

真福院は伊勢国司、北畠氏のゆかりの寺です。

- ◎ **尼ヶ岳** : 958.7m。二等三角点、頂上に雨乞い地蔵が祀られている。室生火山群。

その秀麗な山容から**伊賀富士**の別名を持ちます。

青山町と美杉村の境に位置し伊賀盆地の中では最高峰。

遠くから見ると尼が網代笠を被っているように見えるので尼ヶ岳と呼ばれている。

「室生火山群」は溶結凝灰岩を主とする室生火山岩が形成されたあと、侵食によってできた二次的残存地形といわれています。

尼ヶ岳の高尾側山腹に尼ヶ岳山麓森林公園がつくられ、東海自然歩道以外に、富士見峠コース、さえずり、せせらぎ、こだま巡りの小道が整備されコースの組み合わせに変化がとれます。

【三つある伊賀富士の余談】

*尼ヶ岳：985.1m二等三角点。いちばん形が美しい。

首ヶ岳(つむりだけ)、大山ヶ岳(おおやまだけ)と文献に記載あるそうです。

*南宮山(なんぐうやま)：350m三等三角点。伊賀小富士(小富士嶽)。

信長が伊賀攻めするとき山頂から国の様子を眺めた国見山。

山頂に浅間神社が祀られている。

敢国(あへくに)神社：伊賀市一の宮延喜式内社の裏山が南宮山。

祭神：大彦命(孝元天皇の第一皇子伊賀の国を開発、

子孫の阿閉氏が祀ったと考えられ創祀年代は不明)

：少彦名命(産霊神の御子神)

：金山比咩命(金属に関係する神)

*俱留尊山：1037.6m三等三角点。

標高が一番高い。三重県との県境、奈良県に属するが伊賀富士。

追：前記“太陽の道”の「堀坂山」は局ヶ岳 1028.7、白猪山 819.7 とで伊勢三山と言われ漁師の目印になっているそうです。また「松阪富士」と呼ばれ、「伊賀富士」ということもあるそうです。